

景況レポート

(11月分・情報連絡員80名)

製造業は回復基調、非製造業はやや後退

【概況(全体)】

11月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向き15.0%(前回調査16.3%)、「悪化」が26.3%(同30.0%)で、業界全体のDI値は-11.3となり、前月調査と比較し2.4ポイント上回った。

非製造業が前回調査より4.2ポイント下回ったものの、製造業が12.5ポイント上回ったことで全体を押し上げた格好となり、景況DI値は6ヶ月連続で全国及び東北・北海道ブロックを上回る結果となった。

【業界別の状況】

鉱業や建設業が好調を維持しており、食料品製造業では悪化割合が減少した。一方、鉄鋼・金属、小売業、サービス業では好転割合が減少し、加えてサービス業では悪化割合が増加した。燃料価格がようやく値下がりしたものの、原材料などの高騰による経営コストの増加や人手不足が深刻となっているほか、暖冬予測に伴い影響を受けている業界もあるなど、今後の業況については引き続き慎重に見極めていく必要がある。

＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-11.3	-17.6	-23.2
製造業	-12.5	-16.4	-24.1
非製造業	-10.4	-18.4	-22.8

＜景況天気図＞

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30超 10未満 △10未満
 雨 △30超 △10未満
 雷雨 △30以下

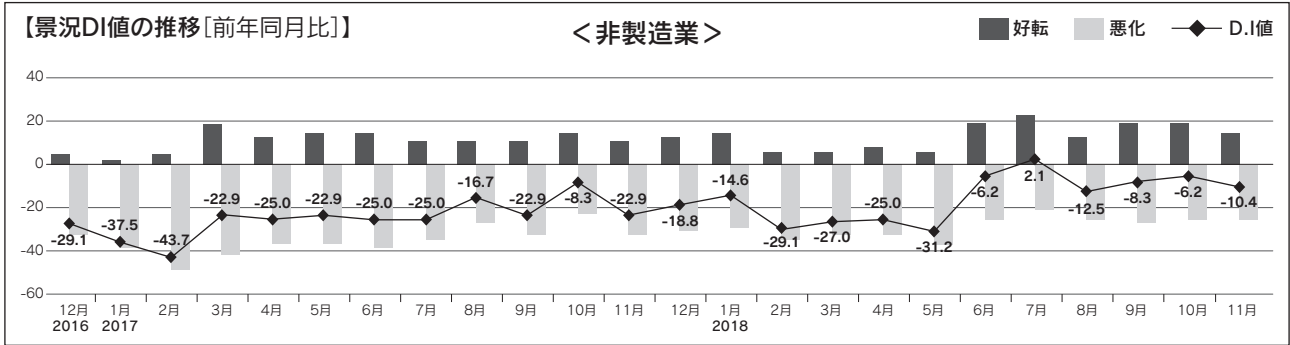
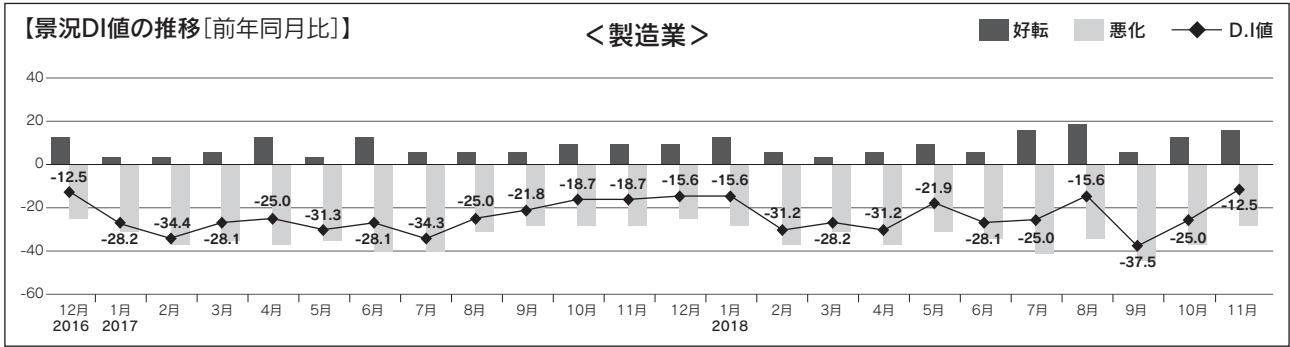
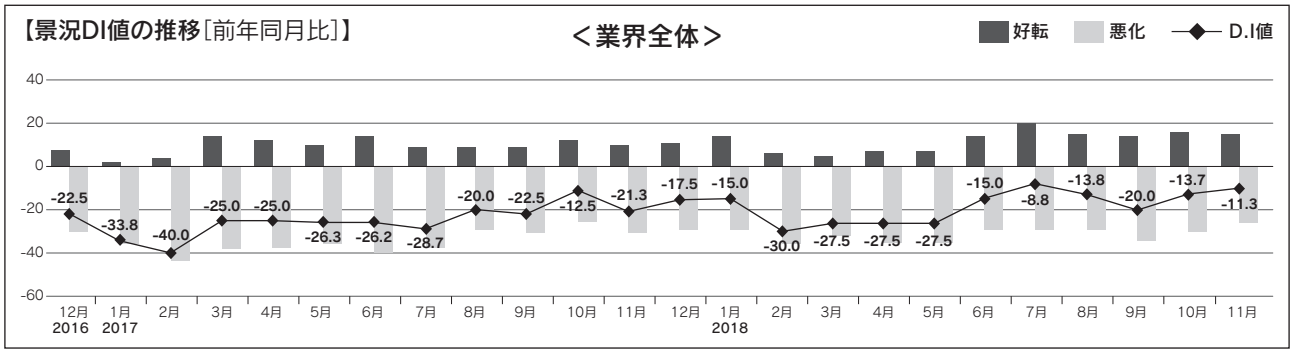
【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (パン)	11月の売上については前年と横這いの状況だった。原料、包装資材の値上げ要請が多数あり、次月以降の経営に不透明感が出てきている。
食料品 (菓子)	原材料・小豆の値上げを販売価格に転嫁できていないのに加え、個人消費の低迷で売上も落ち込み厳しい状況である。
繊維工業 (繊維)	秋から初冬にかけて暖冬傾向のため、重衣料の販売が振るわず仕事量が不足気味に推移しており、売上に影響している。(県南地区)
木材・木製品 (家具)	大都市圏の需要先確保事業者と営業企画・客先向け提案能力のある事業者には稼働率の確保と些かな好況感が見られるようであるが、待ちの姿勢の事業者にとっては良好な実感は見受けられない。加えて、県内・市内となる地場需要を主体とする事業者にとっては、以前のような好況感を得ることはない。
印刷	印刷需要の点数・量とも回復をしていない。来年実施される年号の変更、消費税の増税に伴う調整事項が続いている。低価格の発注・受注は依然として改善されていない。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	11月の出荷数量は前年比122.5%であり、4月～11月累計で前年比120.4%となった。日沿道工事の進捗が順調に推移し、出荷数量が減少した大館北秋地区及び能代火力発電所3号機建設工事の終了による出荷減となった能代山本地区を除く他地区は、出荷数量が増加している。今年度は640,000m ³ (前年比113.6%)前後が予想される。
鉄鋼・金属 (機械金属)	多少のバラツキはあるものの、各社とも収益状況は好調を維持している。一部で原材料不足などによる遅れが出ているところがあり、対応に苦慮している。各社とも100%以上の稼働で忙しい年末となりそうである。
一般機器 (金属加工)	受注面は、ほぼ前年並みに推移、原材料の価格は少し落ち着いている。収益面では大手の下請けは相応の利益を確保しているものの、孫請け先は依然として厳しい経営となっている。
その他 (曲げわっぱ)	需要は多少落ち着いてきた感があり、組合員企業ごとの需要にバラツキが出ているようだ。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

- 卸売業 (商業卸) 小売業の進出による競争激化、需要の停滞、仕入単価の上昇を経営の問題に挙げる企業が多く、取り巻く環境は依然厳しい。(中央地区)
- 卸売業 (古紙) 古紙全体の回収量は24,660kg(前年同月比95.3%)だった。年内に発行が限定されている中国の輸入ライセンスが土壇場で大量発行されたことにより在庫は減少し、価格は11月1日より更に3円高く、輸出価格は最高値となっている。
- 小売業 (自動車) 11月の新車販売台数は、登録自動車が2,020台(前年同月比105.3%)、軽自動車が2,070台(同118.9%)で、合計4,090台(同111.7%)だった。車種別では、普通乗用車、小型貨物の伸びが大きく、軽自動車も全体的に好調だった。
- 小売業 (石油) ガソリンの小売価格は1ℓあたり154円60銭で前月比3円30銭、軽油は135円50銭で前月比2円10銭、配達灯油18ℓは1,788円で前月比52円とそれぞれ値を下げた。原油価格の大幅な下落により、元売仕切り価格は毎週値下がりとなり、小売価格も連動して値下げ傾向となった。
- 商店街 小売等は全般的に消費購買力が流出し、商況は厳しくなっている。飲食業は前月と比べて持ち直しの感がある。(秋田市)
- 暖冬予想のためか、衣料部門で厚物・長袖の動きが良くない。季節商品取扱い店舗は販売企画の変更を行いつつ、12月予算の立案に苦慮している。(大館市)
- サービス業 (タクシー) 運行回数及び運送収入は前年同月比でそれぞれ下回った。乗務員不足により稼働率が低下している。特に高齢乗務員が多くを占めるなか、夜間の運転を避けたいとする乗務員が増えている。地域によっては、20時以降の利用に対応できない場合も出てきている。
- 建設業 (一般土木建築) 官庁工事において、土木工事は昨年と今年の雨災害等で忙しいが、建築関連は物件が少ない。
- 運輸業 (トラック) 11月も順調に推移している。売上・収益ともに前月より増加しており、前年同月比でも売上は増加となっている。12月は年末の繁忙期に入ることから期待感があり、燃料価格が値下がりしたおかげで収益状況は多少回復している。(県南地区)